



レジデントからのメッセージ



内科系
ジュニアレジデント(2年目)(平成28年入職)
小林 千夏先生



私が当センターで2年間研修し感じた、当センターの良いところをご紹介します。
・指導医に恵まれている…私は研修医として約1年半、内科系・外科系問わず様々な診療科をローテートしましたが、指導医の先生方は非常に優秀だと感じました。時には厳しく、時には優しく丁寧に指導して頂き、それぞれの診療科での数ヶ月は非常に貴重なものでした。
・学閥がない…当センターに勤務している医師は、どの診療科においても出身大学・研修病院が本当に様々です。私自身も当センターに数人しかいない大学の出身ですが、大学名で区別されたことは一度もありません。むしろ、色々な大学や研修病院の話聞く機会が多く、見聞を広めることが可能となっています。



外科系
ジュニアレジデント(2年目)(平成28年入職)
遠藤 成晃先生



この冊子をご覧になる方にとって、当センターはどのように映っているのでしょうか。私自身は地元さいたまにおける中核病院の1つというのが最も強い印象で、循環器系に強い、2016年4月より救命救急センターを立ち上げ3次救急を開始した、選択で自治医科大学病院の科もローテーションすることができる等、検索したらすぐわかるようなことも、実際に研修するまでは真の意味ではわからないままでした。何を伝えたいかと言うと興味を持っていただけたのなら、色々調べるよりまず見学に来ていただきたいということです。実際に研修医が働いている姿や雰囲気を感じなければ当センターの魅力はわかりません。ではその魅力とは何なのか。それは一言で“距離の近さ”とまとめられる



外科系
ジュニアレジデント(2年目)(平成28年入職)
降旗 宏先生



当センターでは三次救急対応になったことによって、研修医でも高度な救急医療に携わることができ、academicからcommonに至るまで様々な疾患を経験することができるという話はもう一人のレジデントの先生がしてくれると考え、私は自分が研修で大切だったと感じた事に関して紹介させてい頂きたいと思いません。
私自身、当センターを志望した理由は、興味のある科の手術件数が多いといった単純なものでしたので、ローテーションで他の科は重要視していませんでした。しかし、研修が始まってみると、内科・外科に関わらず、複雑な症例は自科だけで完結できず、他科の先生方の相談する必要性が多々出てきました。この相談をどれだけスムーズに行うかが、複雑症例の治療のポイントに

・手技の取得機会が豊富…研修医が取得すべき手技はいくつかあると思います。例えば、末梢静脈ルートの確保や、動脈穿刺、中心静脈カテーテル留置など。当センターでは研修医1年目の4月からそれらの手技を行う機会に恵まれており、先輩や指導医が丁寧に教えてくれます。不器用で手技に自身がない方でも、研修2年間を終える頃にはきっと上達していることと思います。
・病院が綺麗…研修医は当直やカンファレンスの準備のため、しばしば1日のほとんどを病院で過ごします。当センターは平成元年に建てられているため、比較的建物が新しいです。私が学生の時に最初に当センターを見学して最初に抱いた印象がそれでした。過ごす環境は想像以上に大切で、職場が綺麗だとそれだけで気持ちが良いものです。
・研修医寮が綺麗…研修医生活が始まり、特に最初の1年間は病院と寮を行き来する日々でした。研修医寮は1Kとそれほど広くありませんが、一人で暮らす分には十分であり、またとても綺麗です。病院からは徒歩7分、自転車で3分ほどの距離にあります。1年目、2年目の研修医のほとんどがそこで暮らしており、時には同期や先輩・後輩とそれぞれの家で飲み明かすこともあります。
少しでも当センターの魅力が伝われば幸いです。是非一度、当センターに見学いらしてみてください。

と思います。都心へのアクセスがいい大宮駅はバスで10分程度とまずまずの近さ、研修医寮に至っては起きてから病棟へ着くまで頑張れば5分です。研修医の数も20人台と、全員の顔が覚えられない程のマンモス集団ではありません。また、向上心の塊のような人たちが全国から集まってきているため、お互いに支え合う姿勢が自然と生まれ、お互いの距離も近くなります。研修医時代をハングリーに過ごしたい人にはうってつけです。上級医(1つ上の研修医)も教えたがり、面倒見の良い方々が多く、それ故に叱責されたりもしますが、それほど研修医に対してアツい人たちが多数います。そして、大事なコメディカルともパソコン上(カルテ上)でのやり取りだけでなく、一緒に勉強会を開催したり、患者さんに対してどのような向き合い方がよいのかを活発に議論することもあり、非常に距離が近いです。
この“距離の近さ”は当センターにおいて最も重要なウェイトを占めていると思います。そしてそれを知るには現場で感じる他にないと思います。是非一度見学に来てみてください、辛くも楽しい研修医時代、医者的一步目を踏み出すにふさわしい病院です。

なるのではないかと感じるようになりました。
研修を1年終えて、私が得たものは多彩な症例だけではなく、困った時に相談できる院内の先生方でした。自分で勉強し、知識を蓄え診断、治療を行う事はとても重要なことですが、相談できるネットワークがあることも今後初期研修が明けて、専門性が高くなる中、大きな武器になると思います。将来的に専門性の高い医療をやっていきたくと考えている医学生さんは、研修病院を決める際にぜひともその病院が他科同士で相談しやすい環境であるかを見るべきだと思います。自治医科大学の性質上、先生方の出身大学は様々であることが、相談しやすい環境を作り上げている要素の一つであると感じます。初期研修の最初の頃でも、こういった連携が出来るようになるだけで、チームでの戦力になりますので、当センターで研修をすることになったらぜひコンサルトの得意な研修医になってください。相談する機会が多いと、一つの症例から複合的により多くのことが学べることも、垣根の低さの利点であると思います。
外科系レジデントのメッセージとのことでしたが、蛇足的な話しを失礼致しました。是非見学に来て、病院の雰囲気を自分で感じてみてください。

旭川医科大学	筑波大学	帝京大学	聖マリアンナ医科大学	信州大学	鳥取大学	産業医科大学
札幌医科大学	獨協医科大学	東京大学	東海大学	岐阜大学	島根大学	久留米大学
北海道大学	自治医科大学	東京医科大学	新潟大学	浜松医科大学	川崎医科大学	佐賀大学
弘前大学	群馬大学	東京慈恵会医科大学	富山大学	愛知医科大学	山口大学	長崎大学
秋田大学	埼玉医科大学	東京女子医科大学	金沢大学	三重大学	徳島大学	熊本大学
東北大学	千葉大学	日本大学	金沢医科大学	滋賀医科大学	香川大学	大分大学
山形大学	杏林大学	日本医科大学	福井大学	京都府立医科大学	高知大学	宮崎大学
福島県立医科大学	昭和大学	北里大学	山梨大学	和歌山県立医科大学	福岡大学	琉球大学



小児科プログラム 平成29年3月修了
現シニアレジデント(1年目)(平成27年入職)

大石 高稔先生



他の多くの病院と、当センターの大きな違いはスタッフの先生も研修医も出身大学に偏りが無いことだと思います。

出身大学の偏りがなく、全員が勉強熱心でやる気に満ちた同期ばかりが集まっているので、互いに切磋琢磨し合う環境が自然と出来上がっています。私は九州の大学出身ですが、このような環境のもとで特に苦労することなく研修生活を送ることができています。

スタッフの先生方も当院の研修医上りの方が多く、頼りになるだけでなく日常診療のなかで多くのことをご指導して下さいます。どの科でもやる気さえあればどんな手技でも経験させてもらえるため、自分次第

で医師としてのスキルはどこまででも高めることができます。

また小児プログラムの特徴としては、このプログラムでは当院一般病棟2か月、NICU1か月、さいたま市民医療センターを1か月ローテートします。

一般病棟では疾患の別に捉われず、あらゆる患者さんを診ることができ、小児科の先生はどなたも優しく教育熱心で、子どもの細い血管への点滴の入れ方からエコーの当て方、腰椎穿刺などの手技を丁寧に教えてくださいます。NICUでは全身管理を学べ、commonな症例は市中病院であるさいたま市民医療センターで学ぶことができるようになっています。ICUもローテートするため、小児・成人のどちらも病態生理を網羅的に習得できるようになっております。

小児科はサブスペシャリティを決めるまでは、呼吸器・消化器・神経・内分泌・循環器・血液などあらゆる分野の疾患を診る必要があります。当院での研修はそれらの基礎を学ぶのに非常に適した病院だと思います。当センターの魅力は活字だけでは伝えきれません。是非見学にいらしてください。一緒に働ける日を楽しみにしています。



産婦人科プログラム
ジュニアレジデント(2年目)(平成28年入職)

木村あずさ先生



私は実家が産婦人科ということもあり、医学部を目指した時から産婦人科志望でした。そのため当院の産婦人科コースを選択するのはなんの迷いもありませんでした。ただ当院の産婦人科コースは多数のコースの中から自分に合ったコースを選択できるのが最大のメリットであり、産婦人科に縛られずに様々な科を回ることができます。他科のスペシャリスト達の考え方や疾患を見ておくことは今後の医者人生の中で非常に有益な経験となり何かを判断するときの助けとなります。また、当院では研修医の当直は救急当直となっているので、当直の際には内科外科の全ての知識が必要とされるため、非常に多くのことを学ぶ事ができ、年間を通して様々な疾患や緊急時の対応に直面することができます。

研修医の間はいろんな科をローテートすることを考えると、自分の志望の科以外でどこに魅力があるのかという点は非常に重要な事であると私は考えており、当院での研修は実に医者が身につく場所だと感じています。

それを踏まえた上で当院の産婦人科コースでは最低でも4ヵ月産婦人科(産科2ヵ月、婦人科3ヵ月)を回ることができ、加えて選択3ヵ月間、オプション3ヵ月間を組み合わせれば更に長い期間、産婦人科を回ることも可能です。婦人科では腹腔鏡の高い水準での手術を研修医のうちから見ることができ、産科では大学病院としては経膈分娩の機会が多く、研修医の間としては十分な内容のものを学べると思います。

埼玉県は人口に対しての医者の数が少なく深刻な医者不足、医療過疎が懸念されている県でもあります。その分、埼玉県の大学病院というのはたくさんの症例に出会い、研修医のうちから医者として働く実感を強く持てる場だと感じています。

感じ方は人それぞれだと思いますが、是非一度当院に見学に来てご自身で感じ取ってください。一緒に働ける日を楽しみにしています。



ホスピタリスト重視プログラム
ジュニアレジデント(2年目)(平成28年入職)

瀬戸那由太先生



大病院と市中病院をどちらも経験できるたすきがけ研修、それが当プログラムです。下記のような方におすすめです。

- ・将来どのような診療科に進みどのように働か模索中の方
- ・専門は決めているが初期研修中に幅広くcommon diseasesの勉強をしておきたい方
- ・大学での研修もいけれど市中病院も気になっているという方
- ・なんとなく眺めているそこのあなた!

自治医大さいたま医療センターでは大学病院ならではの専門に特化した診療科と3次救急、英語カンファレンスなどを研修し、さいたま市民医療センターでは市中病院ならではのcommonな内科・小児科疾患とその救急対応などを中心に学びます。もちろんcommonの中にも重症疾患や稀な疾患が少なからず隠れており、必要に応じて自治さい

たまなどの後方病院に送るといことも経験させていただきました。

皆さんは2年間の初期臨床研修に何を望みますか。私は専門的研修や屋根瓦式の教育体制などの観点から自治さいたまを選択した一方、症例豊富な300床規模の市中病院でのactiveな研修も捨てがたかったことから当プログラムを希望しました。1年目の途中での病院の異動はいささか不安でしたが、市民医療センターの内科上級医は自治さいたまからの派遣医師も多く、問題ありませんでした。同院の内科は総合診療と専門診療の両立を目指した診療体制となっており、毎日行なわれる内科系医師全員集合のモーニングカンファレンスでは、研修医が各科の専門医から直接フィードバックをもらえる貴重な勉強の機会となっています。

実際に勤務して思うのは初期研修中に立場の異なる2病院で研修できることは大変貴重であるということ。より多様な疾患、重症度、患者層を経験できるとともに、1施設に留まった場合ではわからないような新たな発見ができるこのプログラムは本当に魅力的です。環境が変わるのは大変ではありますが、多忙な研修医であるからこそ意図的に視点を変えるチャンスを作り、大病院と市中病院のイイトコドリをする贅沢な研修をしてみませんか。一緒に働ける日を楽しみにしています。